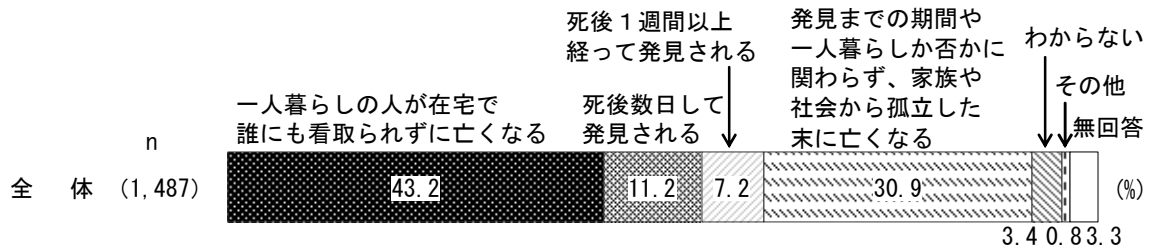
３　高齢者の孤立化問題について

（１）孤立死（孤独死）のイメージ

◇「一人暮らしの人が在宅で誰にも看取られずに亡くなる」が４割台半ば

問７　いわゆる孤立死（孤独死）に明確な定義はありませんが、あなたが考える孤立死（孤独死）のイメージに近いものは次のどれですか。（○は１つ）

＜図表３－１＞孤立死（孤独死）のイメージ



孤立死（孤独死）のイメージを聞いたところ、「一人暮らしの人が在宅で誰にも看取られずに亡くなる」（43.2%）が最も高く、４割台半ばとなっている。以下、「発見までの期間や一人暮らしか否かに関わらず、家族や社会から孤立した末に亡くなる」（30.9%）、「死後数日して発見される」（11.2%）、「死後１週間以上経って発見される」（7.2%）と続いている。（図表３－１）

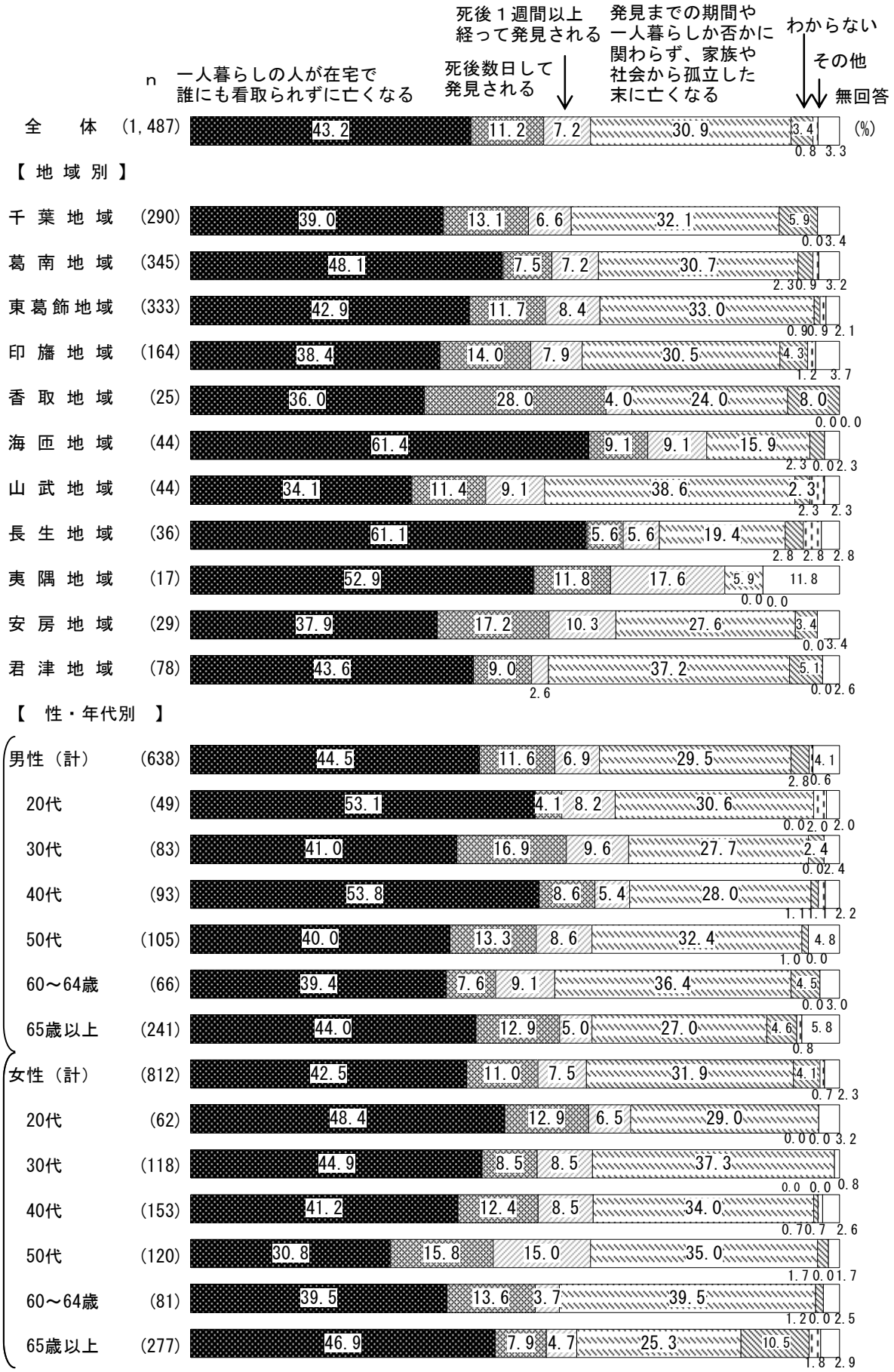
【地域別】

地域別にみると、「一人暮らしの人が在宅で誰にも看取られずに亡くなる」は“海匝地域”（61.4%）、“長生地域”（61.1%）が６割を超え他の地域に比べて高くなっている。「発見までの期間や一人暮らしか否かに関わらず、家族や社会から孤立した末に亡くなる」は“山武地域”（38.6%）、“君津地域”（37.2%）が約４割、「死後数日して発見される」では“香取地域”（28.0%）が約３割で他の地域に比べて高くなっている。「死後１週間以上経って発見される」は“夷隅地域”（17.6%）が約２割で他の地域に比べ高くなっている。（図表３－２）

【性・年代別】

性･年代別にみると、「一人暮らしの人が在宅で誰にも看取られずに亡くなる」は男性の20代（53.1%）、40代（53.8%）が５割台半ばで他の年代に比べて高くなっている。「発見までの期間や一人暮らしか否かに関わらず、家族や社会から孤立した末に亡くなる」は女性の30代（37.3%）と60～64歳（39.5%）が約４割、「死後数日して発見される」では男性の30代（16.9%）、女性の50代（15.8%）で１割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。「死後１週間以上経って発見される」は女性の50代（15.0%）が１割台半ばで他の年代に比べ高くなっている。（図表３－２）

＜図表３－２＞孤立死（孤独死）のイメージ／地域別、性・年代別

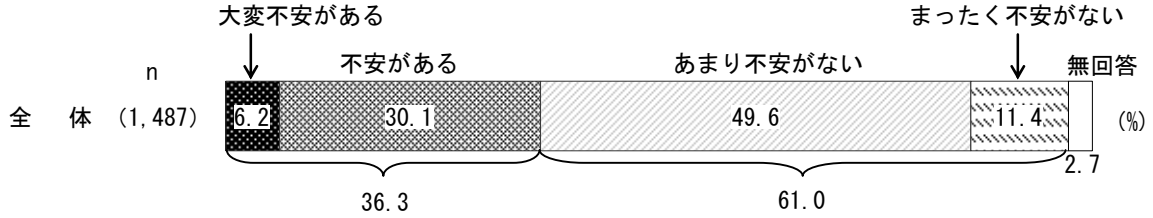


（２）孤立死（孤独死）に対する不安

◇『不安がある』が３割台半ば

問８　あなたはいわゆる孤立死（孤独死）に対する不安がありますか。（○は１つ）

＜図表３－３＞孤立死（孤独死）に対する不安



孤立死（孤独死）に対する不安について聞いたところ、「大変不安がある」（6.2%）、「不安がある」（30.1%）を合わせた『不安がある』（36.3%）は、３割台半ばとなっている。一方「あまり不安がない」（49.6%）、「まったく不安がない」（11.4%）を合わせた『不安がない』（61.0%）は６割を超えている。（図表３－３）

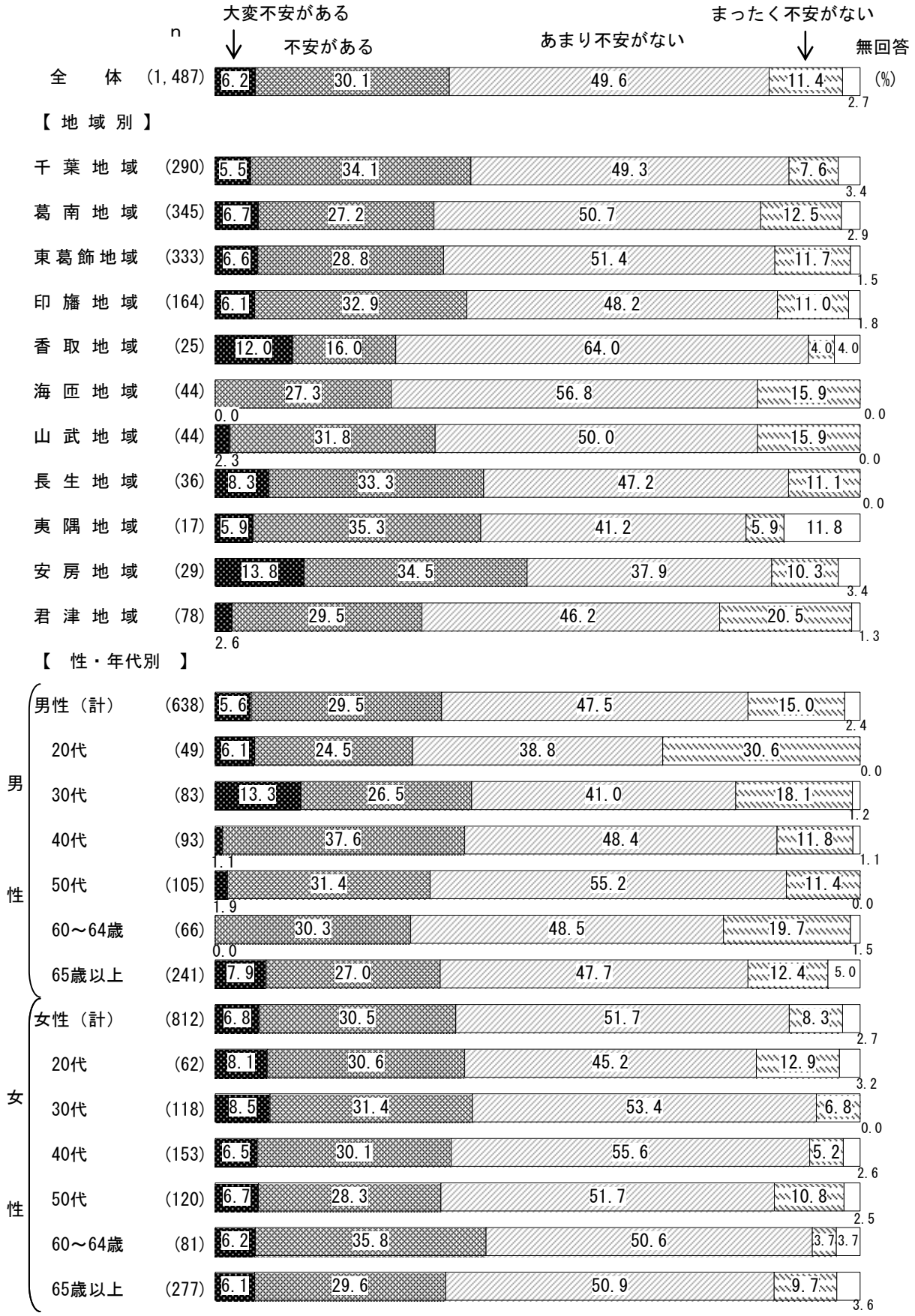
【地域別】

地域別にみると、『不安がある』では“安房地域”（48.3%）が約５割と他の地域に比べ高くなっている。一方『不安がない』は“海匝地域”（72.7%）が７割を超えて他の地域に比べて高くなっている。（図表３－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『不安がある』は女性の60～64歳（42.0%）が４割を超え、男女の30代（ともに39.8%）が約４割で他の年代に比べて高くなっている。一方、『不安がない』は男性の20代（69.4%）、60～64歳（68.2%）が約７割で他の年代に比べて高くなっている。（図表３－４）

＜図表３－４＞孤立死（孤独死）に対する不安／地域別、性・年代別



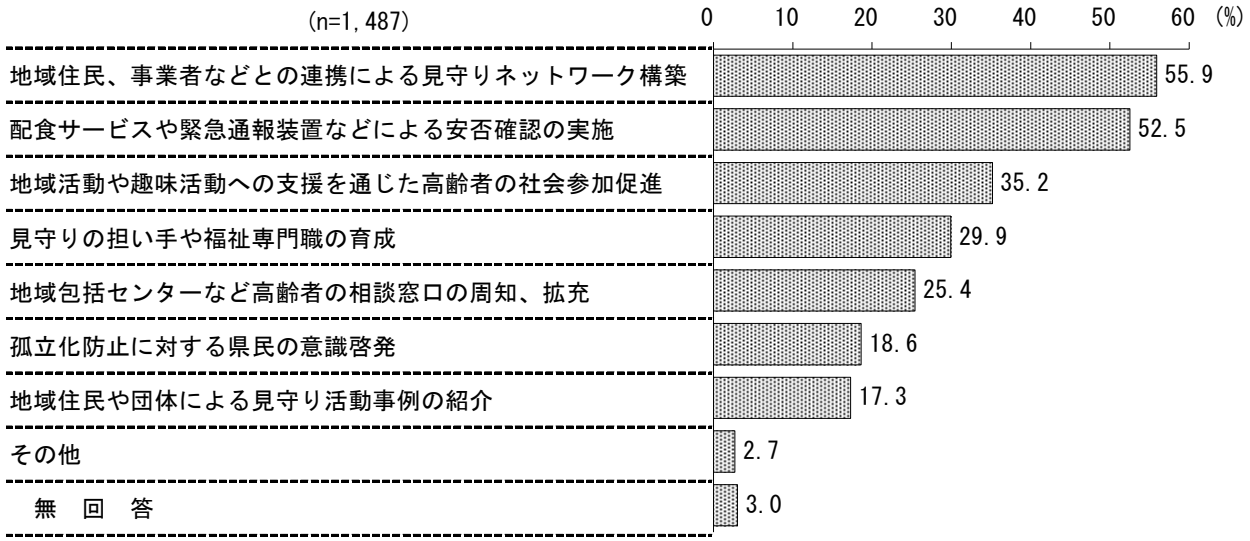
（３）高齢者を孤立化させないため、行政が取り組むべきこと

◇「地域住民、事業者などとの連携による見守りネットワーク構築」が５割台半ば

問９　高齢者を孤立化させないため、行政が取り組むべきことは何だと思いますか。

（○はいくつでも）

＜図表３－５＞高齢者を孤立化させないため、行政が取り組むべきこと（複数回答）



高齢者を孤立化させないため、行政が取り組むべきことを聞いたところ、「地域住民、事業者などとの連携による見守りネットワーク構築」（55.9%）が最も高く５割台半ば、次いで「配食サービスや緊急通報装置などによる安否確認の実施」（52.5%）、「地域活動や趣味活動への支援を通じた高齢者の社会参加促進」（35.2%）が続いている。（図表３－５）

【地域別】

地域別にみると、「地域住民、事業者などとの連携による見守りネットワーク構築」は“夷隅地域”（82.4%）が８割を超えて高くなっている。「配食サービスや緊急通報装置などによる安否確認の実施」では“香取地域”（68.0%）が約７割、「地域活動や趣味活動への支援を通じた高齢者の社会参加促進」は、“香取地域”（40.0%）、“東葛飾地域”・“印旛地域”（ともに39.0%）が約４割と高くなっている。（図表３－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「地域住民、事業者などとの連携による見守りネットワーク構築」は男性50代（66.7%）が６割台半ばで他の年代に比べ高くなっている。「配食サービスや緊急通報装置などによる安否確認の実施」では女性20代（64.5%）が６割台半ば、「地域活動や趣味活動への支援を通じた高齢者の社会参加促進」は女性60～64歳（48.1%）が約５割、男性20代（44.9%）、30代（44.6%）が４割台半ばで他の年代に比べ高くなっている。（図表３－６）

＜図表３－６＞高齢者を孤立化させないため、行政が取り組むべきこと／地域別、性・年代別

	n	□地域住民、事業者などとの連携による見守りネットワーク構築	□配食サービスや緊急通報装置などによる安否確認の実施	□地域活動や趣味活動への支援を通じた高齢者の社会参加促進	□見守りの担い手や福祉専門職の育成
全体	(1,487)	55.9	52.5	35.2	29.9
【地域別】					
千葉地域	(290)	53.8	54.8	33.1	33.1
葛南地域	(345)	58.0	51.3	35.1	30.1
東葛飾地域	(333)	57.7	52.3	39.0	31.5
印旛地域	(164)	55.5	50.6	39.0	25.0
香取地域	(25)	64.0	68.0	40.0	32.0
海匝地域	(44)	52.3	47.7	27.3	29.5
山武地域	(44)	54.5	52.3	20.5	22.7
長生地域	(36)	55.6	52.8	36.1	16.7
夷隅地域	(17)	82.4	52.9	17.6	41.2
安房地域	(29)	58.6	55.2	31.0	34.5
君津地域	(78)	56.4	51.3	30.8	29.5
【性・年代別】					
男性 男性（計）	(638)	54.4	46.9	34.2	30.4
男性 20代	(49)	44.9	42.9	44.9	28.6
男性 30代	(83)	50.6	47.0	44.6	41.0
男性 40代	(93)	54.8	53.8	26.9	33.3
男性 50代	(105)	66.7	52.4	27.6	34.3
男性 60～64歳	(66)	60.6	43.9	27.3	28.8
男性 65歳以上	(241)	50.6	43.2	36.1	24.5
女性 女性（計）	(812)	57.4	57.5	36.7	29.7
女性 20代	(62)	62.9	64.5	41.9	33.9
女性 30代	(118)	61.9	58.5	38.1	32.2
女性 40代	(153)	61.4	61.4	30.1	30.7
女性 50代	(120)	58.3	61.7	34.2	31.7
女性 60～64歳	(81)	61.7	54.3	48.1	30.9
女性 65歳以上	(277)	50.2	52.3	36.1	25.6

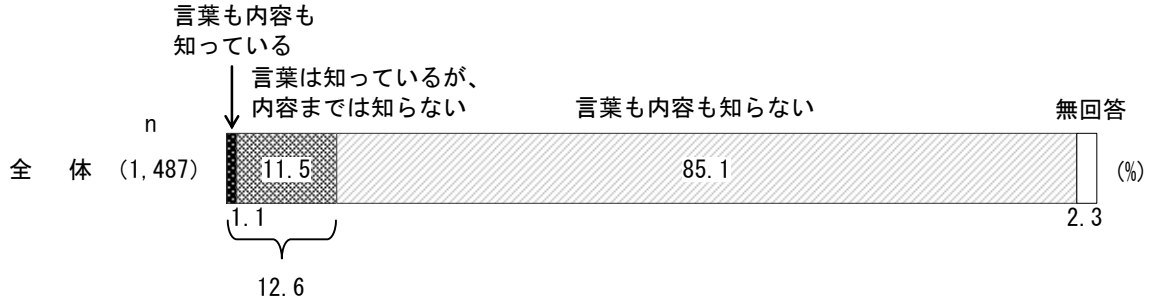
	n	□地域包括センターなど高齢者の相談窓口の周知、拡充	□孤立化防止に対する県民の意識啓発	□地域住民や団体による見守り活動事例の紹介	□その他
全体	(1,487)	25.4	18.6	17.3	2.7
【地域別】					
千葉地域	(290)	25.9	21.7	17.2	2.1
葛南地域	(345)	24.6	15.9	16.5	3.8
東葛飾地域	(333)	28.8	19.2	17.1	1.8
印旛地域	(164)	23.2	18.9	18.9	1.8
香取地域	(25)	20.0	32.0	24.0	4.0
海匝地域	(44)	25.0	13.6	22.7	0.0
山武地域	(44)	13.6	15.9	11.4	4.5
長生地域	(36)	36.1	16.7	16.7	2.8
夷隅地域	(17)	23.5	11.8	29.4	0.0
安房地域	(29)	17.2	13.8	27.6	0.0
君津地域	(78)	25.6	20.5	15.4	3.8
【性・年代別】					
男性 男性（計）	(638)	22.3	18.8	17.1	3.3
男性 20代	(49)	22.4	14.3	8.2	6.1
男性 30代	(83)	16.9	28.9	16.9	2.4
男性 40代	(93)	17.2	16.1	11.8	4.3
男性 50代	(105)	21.0	16.2	16.2	3.8
男性 60～64歳	(66)	24.2	19.7	24.2	1.5
男性 65歳以上	(241)	25.7	18.3	19.1	2.9
女性 女性（計）	(812)	28.1	19.2	17.4	2.1
女性 20代	(62)	22.6	12.9	19.4	0.0
女性 30代	(118)	20.3	14.4	12.7	3.4
女性 40代	(153)	30.1	19.6	11.8	3.3
女性 50代	(120)	30.8	20.0	19.2	1.7
女性 60～64歳	(81)	32.1	22.2	23.5	1.2
女性 65歳以上	(277)	29.2	20.9	19.5	1.8

（４）高齢者孤立化防止活動「ちばＳＳＫプロジェクト」認知度

◇『知っている』が１割を超える

問 10　あなたは「しない、させない、孤立化！」を合言葉に県が実施している高齢者孤立化防止活動「ちばＳＳＫプロジェクト」を知っていますか。（○は１つ）

＜図表３－７＞高齢者孤立化防止活動「ちばＳＳＫプロジェクト」認知度



高齢者孤立化防止活動「ちばＳＳＫプロジェクト」の認知度を聞いたところ、「言葉も内容も知っている」（1.1%）、「言葉は知っているが内容までは知らない」（11.5%）を合わせた『知っている』（12.6%）は、１割を超えている。一方「言葉も内容も知らない」（85.1%）は、８割台半ばとなっている。（図表３－７）

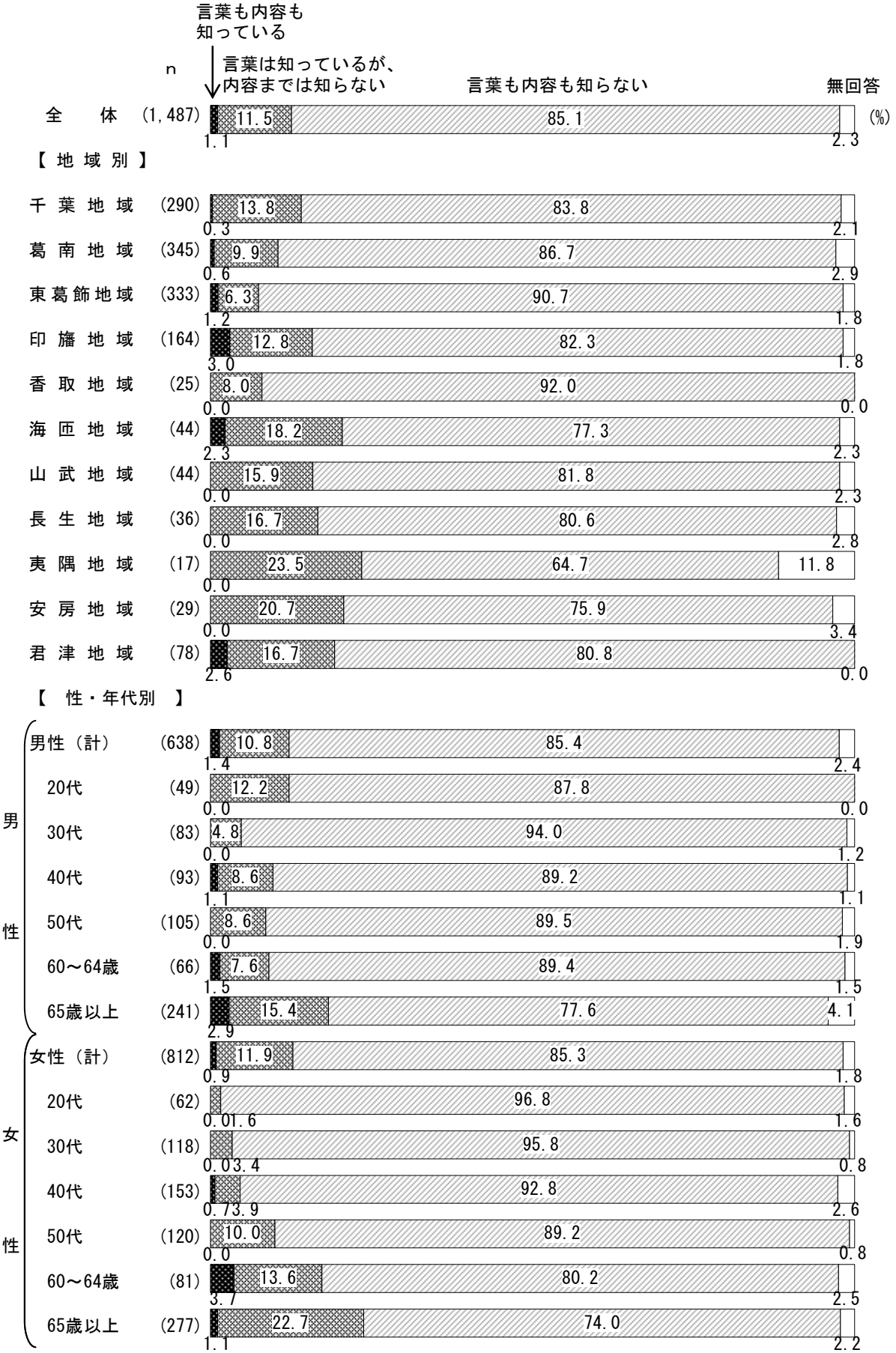
【地域別】

地域別にみると、『知っている』は“夷隅地域”（23.5%）が２割台半ばと他の地域に比べ最も高く、以下“安房地域”（20.7%）、“海匝地域”（20.5%）の２割となっている。（図表３－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている』は女性65歳以上（23.8%）が２割台半ばと他の年代に比べ高くなっている。（図表３－８）

＜図表３－８＞高齢者孤立化防止活動「ちばSSKプロジェクト」認知度／地域別、性・年代別



このほかに、「高齢者の孤立化問題について」やここまでの質問（問７～問10）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、211人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「高齢者の孤立化問題」の自由回答（抜粋）

○ 子供が二人いるが、将来は独立するかもしれないので、一人きりになったとき、時々見に来て欲しい。別に県や市が知っている方なら、誰でもよい。（女性・50 代・葛南地域）

○ 高齢者自身が自分で孤立しないよう、またあまり世間の皆様に迷惑をかけないようにどうすればよいのか？　元気なうちに考えておくことが大事だと思います。（女性・60～64 歳・葛南地域）

○ 高齢者孤立化防止に対しての取り組みの周知がされていないことが課題では？　誰もがもっと気軽に参加できるようなボランティアの企画（街コンやゴミ拾いのように）を幅広く周知できるような仕組みがあればと思います（大学や図書館、商業施設等も利用して）。
（女性・20 代・千葉地域）

○ 人間関係の提供が必要だと思います。介護保険のサービスである通所リハ、通所介護サービスをより充実させてほしいです。外へ出る、外出する機会を持つ、おしゃべりで刺激を受ける、集うことで安心感を得る、全うなもの食べて意欲が出る、メンタル的な部分にアプローチすれば、孤立は防げるのではないでしょうか？（男性・20 代・東葛飾地域）

○ やはり、人とのコミュニケーションが大切であり、思いやりを大切にできるような教育を進めていくべきで、皆が集まれるような公園があるといいと思います。そして、ヤクルトさんに回ってもらえたら、一番分かりやすいと思います。（女性・30 代・葛南地域）

○ 独居老人に生活に対する深い干渉は不必要だと思われます。但し、早急な体調不良等を知らせるポケベルのような発信器を配布（無料）したら良いかと思います。（男性・65 歳以上・千葉地域）

○ ちばＳＳＫプロジェクト活動をわかりやすく、多くの人に知ってほしい。
（女性・65 歳以上・千葉地域）

○ 高齢、一人暮らしの人が多い地域に住んでる。色々な方法で、訪問、援助していってほしい（一部の人だけでなく、誰もが平等に）。（女性・40 代・海匝地域）

○ 若者が就職や進学で実家を離れ、そのまま別の都市に移住する。いずれ戻ってくるのであればいいが、そうもならない。孤立化になるのは、このような現状があると思う。地元で働くという、若者の意識を変えていかないといけないことも必要。（男性・30 代・君津地域）